

<取材のお願い>

2023年9月1日

長崎大学

国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)

さくらサイエンスプログラム推進本部

ケニアの学生が長崎の離島で先端科学技術を学ぶ

～長崎大学の学生と共に、アフリカのへき地・辺縁地域問題の解決に取り組む～

長崎大学は、9月9日(土)～9月16日(土)、ケニアのケニヤッタ大学、マセノ大学、ジョモケニヤッタ農工大学、ケニア中央医学研究所から大学生1名、大学院生3名、教員6名、研究者2名の計12名を招き、「長崎離島・へき地からのプラネタリーヘルス：アフリカでの問題解決を離島の先端科学技術から考える」というテーマで研修プログラムを実施します(*内教員2名は自費による招へい)。プログラムには、ケニアの4つの教育研究機関から長崎大学に長期研修で来日している学生4名に加え、長崎大学の教員や学生5名も参加します。

「プラネタリーヘルス(地球の健康)」とは、地球と人間は別々の存在ではなく、相互依存関係にあることを前提に置き、全ての生態系と地球の健康の共存を目指す、という概念です。

長崎大学では、「プラネタリーヘルス」を支え続けるために有効な「答え(解決策)」を探求し、人間の意識変容、行動変容を促すための研究に取り組んでいます。その一環として、離島・へき地を抱える長崎県の問題を解決することを目的に、五島市内での「次世代型オンライン遠隔医療システム」、自然と調和した再生可能エネルギーである「浮体式洋上発電所」や「海洋開発プロジェクト」、ドローンを利用した二次離島配送事業など、先端科学技術を応用した問題解決への取り組みを行っています。

ケニアでも、へき地・辺縁地域など、長崎県内の離島・へき地と類似した問題を抱えており、問題解決のための科学技術の応用と、その人材を育成することが急務となっています。

本プログラムの目的は、ケニアの学生らが長崎の離島で先端科学技術を見学・体験することで、自国のへき地・辺縁地域の問題の解決策を考え、提案することです。

プログラム中、ケニアの学生らが五島市内を訪問し、離島医療や遠隔医療、浮体式洋上風力発電、ドローン配送事業等を見学します。また、ケニアと長崎大学の学生が、ケニアのへき地・辺縁地域の問題解決に向け、どのような最新科学技術の応用が可能かを考えます。

本プログラムをきっかけに、日本とケニアの学生・教員の交流が活発になることで、両国の「頭脳循環」の促進、さらには共同研究の増加を目指します。

本プログラムは、科学技術振興機構(JST)主催の「国際青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプログラム)」*に採択されたものです。

* 「国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）」科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費を JST が支援します。

<https://ssp.jst.go.jp/>



つきましては、ケニアならびに長崎大学の学生らがシンポジウムに参加する様子、遠隔医療や浮体式洋上風力発電を見学する様子、成果報告会で発表する様子などを取材していただきたくお願い申し上げます。なお、参加者をはじめ、実施担当の金子聡教授へのインタビュー取材もアレンジが可能ですので、ご希望の方は担当者までご連絡くださるようお願いいたします。

【実施内容】 ●オリエンテーション ●PHASE シンポジウム参加 ●五島市内見学（離島医療、遠隔医療、ドローン配送事業、浮体式洋上風力発電等） ●成果報告会、意見交換会

【実施場所】長崎大学 文教キャンパス、五島市

【研修日程概要】

9月9日（土）	午後：入国
9月10日（日）	午前：羽田空港から長崎空港へ移動 午後：長崎市内着
9月11日（月）	午前：オリエンテーション 午後：PHASE シンポジウム参加（同時通訳あり）
9月12日（火）	午前：長崎市内から五島市へ移動（メディア各社様は、独自に移動願います） 午後：五島市内視察（遠隔医療）
9月13日（水）	午前：五島市内視察（浮体式洋上風力発電） 午後：五島市内視察（ドローン配送事業）
9月14日（木）	午前：五島市内視察（マグロ養殖場）（撮影不可） 午後：五島市から長崎市へ移動
9月15日（金）	午前：グループワーク、学長表敬訪問 午後：成果報告会、意見交換会
9月16日（土）	午前：原爆資料館見学 午後：離日

※学生とのコミュニケーションには、長崎大学教員・学生が通訳を行います

■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

長崎大学生命医科学域・研究所事務部学務課大学院担当内 PHASE プログラム事務局

担当：馬場 由妃子

■国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室

（担当：田中(禎)、太田）